

「春の交流会」留学生交え“かるた”と“懇親”

TNC

通信

2023
4月号

卯年の一言

「鹿を逐(お)う者は兔(うさぎ)を顧みず」— 大きな鹿を捕えようとする者は小さな兔に目もくれない事から、大きな利益をねらう者は目先の小さな物は顧みないという譬え(『淮南子』)



参加者による記念撮影(写真㉔)と各テーブルでのカルタ遊び(写真㉕)

桜の開花が間近となり、コロナも落ち着いてきた3月25日、富ヶ丘公民館で春節行事にかえて「春の交流会」が行われました。水戸理事長のあいさつの後、東北大学の蔣、洪、謝、汪、王、高さんの6人、富谷在住の陳さん一家が自己紹介。横山副会長から“かるたの遊び方”の説明があり、早速、4

グループに分かれ「いろはかるた」「小倉百人一首」「漢詩かるた」「仙台弁かるた」を一巡する形で体験しました。留学生はカルタの名は知っていても体験するのは初めて。しかし徐々に慣れ、多くのカルタを取りにぎやかに交流。その後、おやつのお菓子も提供され、グループごとに懇談のひと時がもたれ、留学生を中心に質疑や会話が弾み「色々話ができうれしかった」「こういう機会はすばらしい」等、感想がきかれました。最後に松田副会長から「多くの形で交流を進めていきたい」挨拶がありました。

富谷から県女性委員会行事に参加！ ＝おひなまつり見学・舟下りで交流深める＝



3年ぶりの“お雛祭り”は“おひなさまめぐり”のバス旅行として企画。26名が参加し、富谷市日中からは地域友人を含め7人が参加(写真㉖齋理屋敷)。

8時半に仙台駅東口を出発。バスガイドさんの案内で宮華女の2名の他、ご

夫婦での参加もありました。女性委員会からおやつとお茶もいただき、初めに丸森町の「阿武隈川ライン舟下り」を楽しみ、季節の草木は見られない時期でしたが、阿武隈急行の鉄橋や船頭さんの舟歌も楽しみました。また売店では地域限定クーポンで名物の物産品を購入したりもしました。

昼食は名物の「ほっきめし」「カキめし」に舌鼓を打ち、午後は目的の“おひなさまめぐり”を楽しみました。初めに「丸森町蔵の郷土館 齋理屋敷」を訪問し、特別展示の「齋理の居宅の雛と新館での和紙の雛」見学。

次に角田市郷土資料館へ。企画展「雛人形」で伊達一門筆頭の石川家に嫁した政宗の愛娘・牟宇姫の雛飾り等時代順に見学(写真㉗)。「素敵な一日でした」と皆さん満足でした。(M)



仙台国際音楽コンクール優勝記念 『ルウオ・ジャチン ピアノリサイタル』

中国人ピアニストの記念演奏。
日時：5月28日(日)14時開演
全席指定：3000円シルバー2700円
購入：ローソン(コード22766)等
会場：日立システムズホール

『台湾はおばちゃんて回ってる?!』(近藤弥生子著 大和書房 858円)

「読んで旅する よんたび文庫」の一冊。シングルマザーとして生きて、また子連れ再婚した著者が感じたままの台湾生活。中華圏のおばちゃんに学び、助けられた30編を超えるエピソード集となっていて、楽しい。例えば“同調圧力がない台湾”

“台湾人がよく使う言葉” “朝ご飯はお店で食べる” “子供を排除しない社会” “昼食とお昼寝はセット” 等々。もともと旅しただけで感じ取れるかどうかは別。

